

網本 和・長澤 弘(編集)

理学療法チェックリスト(第2版)

評者 対馬栄輝

(弘前大学大学院保健学研究科健康支援科学領域老年保健学分野,
弘前大学医学部保健学科理学療法学専攻)



近年の理学療法で扱う疾患は多様化し、また情報量も多くなり、私も臨床では戸惑うことがある。実習生となると、なおさらであろう。疾患名が何となく思い出せるものの明確には浮かんでこなかったり、何を評価したらよいかと迷ったり、大変なことは多いはずである。

本書は、そのようなときの助けとなる。疾患の簡単な解説、情報収集、評価、理学療法プログラムなどの項目が箇条書きで述べられている。もちろん多くの書籍のように、必ずしも一つひとつの項目が詳細に解説されているわけではない。いわゆる教科書のようなものとは異なる構成であり、何を評価すべきかのチェックリスト形式である。臨床で扱う主要な疾患はもちろん、疼痛、運動失調、姿勢障害などの障害別にも解説されている。第3章の「シーン別」のところでは、私もうっかり忘れてしまいそうなポイントが述べられている。確かに詳細に述べられているわけではないが、こういった情報を得るべきかの要点は押さえられている。用語は豊富に掲載されているので、後でさらに詳細な文献を読むなどのキーワード集としても活用できる。日々の臨床で何度も読み返して練習すれば、体系立った知識が自然に身に付くはずである。

何よりも気に入ったのは、本のサイズである。縦が

約21cm、横が約13cmぐらいのコンパクトな大きさである。これなら、白衣のポケットにも入るし、机の上に置いておかさばらない。常に持ち歩いて、カルテから情報を得るとき、ベッドサイドに臨む前など、さまざまなシチュエーションで活用できる。

本書は、学生が臨床実習に臨む際のチェックリストとして位置づけているようであるが、新人理学療法士はおろか中堅の理学療法士も携帯しておくとう便利である。理学療法士といっても経験も浅い新人であれば、まだまだ知識の整理が十分ではないだろう。また、中堅の理学療法士といっても知識の整理ができていない人もいるであろうし、かたや学生や新人理学療法士を指導する際の指南書としても役立つはずである。現に前刊の第1版は、私も学生指導で活用している。

学生だけが持つのはもったいないので、ぜひ、あらゆる年代の理学療法士の方に携帯していただくことを期待する。活用次第で重宝することは間違いのないだろう。

● A5変型, 382頁, 1色刷

定価: 本体2,800円+税

三輪書店刊, 2014年